上越教育大学特別支援教育実践研究センター紀要，第21巻，53-55，平成27年３月

地域の情報

特色ある交流及び共同学習
～併設する十日町小学校との交流～

藤　木　美　香*・廣　田　　稔*・村　中　智　彦**・齋　藤　一　雄**

１　はじめに

十日町地域には長い間養護学校がなかった。十日町小学校（以下、十日町小）のＰＴＡ、地域の保護者、市教育委員会を中心に、二十年近くにわたって、十日町市立ふれあいの丘支援学校（以下、ふれあいの丘）の開校に向けて様々な取組がなされてきた。

開校以前から、十日町小ＰＴＡでは、校舎改築を目指し「21世紀を見据えた学校づくり」に取り組んでいた。その構想の柱は、２つある。ひとつは、十日町小に郡市内で最初の特殊学級（当時）が開設され、今後も障がい児教育推進の拠点になっていくこと、もうひとつは、これからの障がい児教育で、養護学校が独立して存在するのではなく、共生の理念のもとに通常の学校と隣接し交流を通して共に育つ環境が必要になることであった。

また、昭和38年６月に十日町小と十日町中学校（以下、十日町中）のＰＴＡが主体となった「十日町小、十日町中、『手をつなぐ親の会』」（現在、ほほえみの会）が設立され、地域支援の輪が広がっていった。

こうした取組の中で、平成14年十日町小の余裕教室を利用して、県立小出養護学校（現小出特別支援学校）ふれあいの丘分校（小学部・中学部）が開設された。その後分校には、平成20年に高等部重複学級、平成21年に高等部普通学級が開設された。

以上の経緯の中で、平成25年４月、十日町小の全面改築と同時にふれあいの丘、市発達支援センターの３施設を併設し、共生の理念の実現を目指す「夢の学校」が誕生した。共生の理念とは、「誰もが互いの人格を尊重し支え合う共生社会の実現を目指し、障がいのある者もない者も一つの学舎で、互いに学び合い、認め合い、高め合う教育の機会と場を保証する」ことである。この理念のもと、十日町小、ふれあいの丘、市発達支援センターが一体となって教育活動を行っている。

２　ふれあいの丘の概要と施設の特徴

当校は、小学部、中学部のある知的障がいの特別支援学校である。平成26年度の児童生徒数は、小学部14名（５学級）、中学部16名（４学級）、計30名である。

十日町小の特別支援学級（自閉・情緒障がい、知的障がい）、３つの通級指導教室（言語障がい、発達障がい、難聴）、特別支援学校の小学部と中学部、そして、幼児期からの発達相談、訓練、研修、家族支援を担う市発達支援センターが併設され、複合的に整備されている施設である。

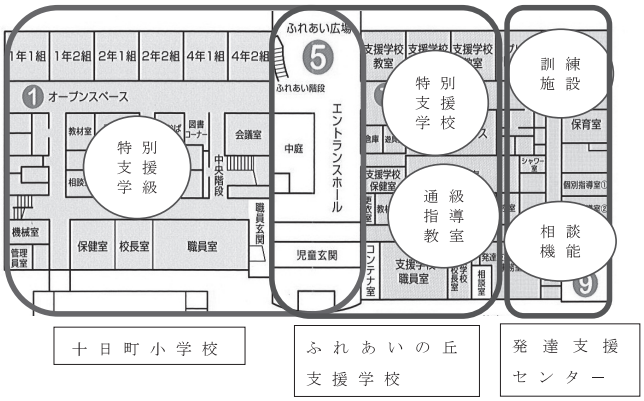

図１　校舎の配置図

校舎図（図１）に示したように、十日町小とふれあいの丘の児童生徒玄関は共用である。児童生徒玄関を入ると、広い廊下（エントランスホール）と吹き抜けのふれあい広場がある。そこは、設計の段階から両校の児童生徒が、日常的な遊びや行事を通して、より深く関わり合うことを企図して設定された空間である。十日町小とふれあいの丘の児童生徒が交流し、絆を深め合い、成長し合うことを期待して、この場所を「ふれあい広場」と名付けたのである。そこは、２つの学校が新たな共生教育の姿を求める象徴となる空間である。また、両校の校章が正面を飾る体育館では、両校合同の集会活動やダンスなどが日常的に展開される。また、体育館の他にも、プール、音楽室や家庭科室等の特別教室すべてが共用である。特にプールは、防犯や安全性を考慮し屋上に設置され、バリアフリーのプールである。

３　交流及び共同学習の取組

（１）重点目標

当校の交流及び共同学習の重点目標は、「様々な活動を通して生活経験を広げ、人とかかわる楽しさを味わいながら、地域の中で共に生きる力を育てる」であり、小学部は、「いろいろな人と一緒に活動する経験を通して人とかかわる基礎を養う」、中学部は、「多くの仲間と活動する経験を積む中で、社会性を伸ばす」である。

（２）交流活動

十日町小との交流では、行事交流、授業交流、休み時間交流等を行っている。その他に、小学部は居住地校交流、中学部は郡市内の中学校や近隣の特別支援学校との交流、そして、小出特別支援学校川西分校との交流等を行っている。

*　十日町市立ふれあいの丘支援学校
**　上越教育大学大学院学校教育研究科

（3）十日町小との交流

①行事交流

城ヶ丘ふれあいカーニバル（運動会）、城ヶ丘ふれあいフェスティバル（文化祭）、城ヶ丘３施設ビッグフェスタ（児童会まつり）、やまびこ班（縦割り班）活動等、両校の全校児童生徒が一緒に活動している。

「顔合わせ会」（４月）

十日町小の児童にふれあいの丘の児童生徒が自己紹介を行っている。また、両校の児童生徒と３施設の職員が一堂に会して相互に知り合う機会である。一年の交流の出発点でもある。

「城ヶ丘ふれあいカーニバル」（５月）

ふれあいの丘の種目として「徒競走」「団体種目」の2種目を実施し、その他に「全校ダンス」「やまびこ班種目」「応援合戦」等を両校一緒に行った（図２）。

図２　城ヶ丘ふれあいカーニバル

「城ヶ丘ふれあいフェスティバル」（10月）

ふれあいの丘の発表の最後には、交流学年の十日町小４年生が加わって、手話をしながらの合同合唱を行った（図３）。

図３　城ヶ丘ふれあいフェスティバル

「やまびこ班活動」（５月～11月）

校内ウォークラリー、遊びタイム等、十日町小の縦割り班にふれあいの丘の児童生徒が入り一緒に活動を行った。両校の児童生徒の交流をさらに深めた。

②授業交流

施設見学（自動車工場、県庁、消防署見学等）に一緒に行ったり、図工や体育の授業に参加したりした。

「共同作品づくり」

フェスティバルに向けて、十日町小特別支援学級の児童とふれあいの丘の小学部２年生とが共同作品づくりを行った。大きな画用紙の上に絵の具で手形や足形をつけて空に浮かぶ雲を表現した作品をつくった。

③休み時間交流

昼休みには、互いの教室に自由に行って遊ぶ姿が見られる。ふれあい広場でも、ボール遊びや追いかけっこをして遊ぶ姿も見られる。

④４年生との交流

十日町小４年生と年間を通して交流を行っている。十日町小４年生の総合的な学習の時間では、「心つなげて」をテーマに、障がいがあっても自分たちと同じであり、共に生活を楽しみ、認め合おうとする姿勢で交流を図ることをねらいの一つとしている。

ふれあいの丘の児童生徒とのかかわりをもつことを通して、高学年になったときにふれあいの丘を含めた両校合同の縦割り班活動で、リーダーシップをとれるようになることを見据えて、総合的な学習の時間を展開している。

ふれあいの丘の児童生徒とペアを組み、年間を通して同じ班で一緒に活動することで、よりかかわりが深くなっている。

「給食交流」

学期に２～3回、一緒に給食を食べている。食事中に会話を楽しんだり、しりとりやジェスチャーゲーム等をしたりしながら給食の時間を楽しく過ごしている。ふれあいの児童生徒にとっても、楽しみな交流の一つとなっている。

「共同作品づくり～巨大アートに挑戦～」

ペアを組んでいる友達と一緒に、大きなシーツに絵を描いた。テーマは設けず、自由な発想で楽しく描いた。ふれあいの丘の児童生徒が描いた絵や形に十日町小の４年生が描き加えたり、互いに相談しながら描いたりする姿が見られた（図４）。

図４　共同作品づくり～巨大アートに挑戦～

「中学部の生徒から学ぼう」

中学部の作業学習の清掃作業（トイレ班、階段班）とクラフト作業（布班、ポリ布班、くるみボタン班）を十日町小４年生が体験した。中学部の生徒の就労に向けて取り組む姿や生き方について学ぶ場となった。

⑤特別支援学級との交流

七夕、クリスマス、豆まきのお楽しみ会を十日町小の特別支援学級の児童と一緒に行っている。小学部の児童と一緒に音楽発表をしたり、全員でゲームを楽しんだりしている。

平成26年度の十日町小との交流をまとめると表１のとおりになる。

表１　平成26年度　十日町小との交流

日にち	活動内容	ふれあいの丘の対象児童生徒	十日町小の対象児童
4/15	顔合わせ会	全校	全校
5/24	城ヶ丘ふれあいカーニバル（運動会）	全校	全校
6/3	給食交流①	全校	4年生
6/23	消防署見学	小学部4～6年生	4年生
7/1	給食交流②	全校	4年生
7/7	七夕お楽しみ会	全校	特別支援学級
7/8	給食交流③	全校	4年生
7/10	自動車工場見学	小学部5、6年生	5年生
7/22	なかよしウォークラリー（縦割り班活動）	全校	全校
9/9	交流授業	小学部2年生	特別支援学級
9/9	給食交流④	全校	4年生
10/1	持久走大会	小学部	全校
10/8	共同作品づくり～巨大アートに挑戦～	全校	4年生
10/8	給食交流⑤	全校	4年生
10/19	城ヶ丘ふれあいフェスティバル（文化祭）	全校	全校
10/28	やまびこ班遊び（縦割り班活動）	全校	全校
10/28	県庁見学	小学部5、6年生	4年生
11/11	やまびこ班遊び（縦割り班活動）	全校	全校
11/19	城ヶ丘3施設ビッグフェスタ（児童会まつり）	全校	全校
12/8	給食交流⑥	全校	4年生
12/17	クリスマスお楽しみ会	全校	特別支援学級
1/16～3/2	中学部の生徒から学ぼう	中学部	4年生
2/4	豆まきお楽しみ会	全校	特別支援学級
2/24	給食交流⑦	全校	4年生
3/13	交流給食⑧	全校	4年生
3/13	ありがとう集会	全校	4年生

４　交流活動を通しての成果

○　縦割り班活動を一緒に行うことを通して

交流学年の４年生だけでなく、全校児童と交流ができるようになった。城ヶ丘ふれあいカーニバルでは、やまびこ班種目や全校ダンスを一緒に行ったことにより一体感が生まれ、両校の児童生徒の交流を楽しむ姿や充実感にあふれる表情が見られるようになった。

ウォークラリーややまびこ班遊びを通して、分け隔てなくかかわり、両校の児童生徒が互いに声をかけ合い、助け合う姿が見られるようになった。交流学習を積み重ねる中で、ふれあいの丘の児童生徒は、大勢の中での活動に抵抗を示さなくなった。カーニバルやフェスティバルの他、避難訓練などの行事で大勢の中にいても、一緒に行動することができるようになってきた。両校の児童生徒が自然な形でかかわり合い、共に活動するようになった。

○　交流学年の４年生との活動を通して

４年生とふれあいの丘の児童生徒がペアで活動に取り組んだことにより、４年生がふれあいの丘の児童生徒をリードしながら上手に支援をする姿も見られるようになった。職員が支援しなくても、児童生徒同士でかかわるようになった。

給食交流、休み時間交流など日常生活の中で、共通の話題をもったり、遊んだりする場面が増えた。

４年生の児童が交流を通しての作文の中で、「初めて会った時はすごくどきどきして、どのように接していけばいいのか、何を話せばいいのか、が頭の中でぐるぐる回っていた。話せた瞬間に『人と話すとこんなに楽しいんだ』ということが分かった」と書いていた。そして「『心つなげて』とは、『つらいときは助け合って、うれしいときは一緒に笑い合う』ことなのかな」「お互いのことを知り合ったり、遊んだり、笑ったりすることだと思う」と書いていた。かかわりをもたせることによって、このようなことを児童自身が感じ、自ら深める姿が見られたと考える。

○　「ほほえみの会」の活動を通して

「ほほえみの会」は十日町小、十日町中の特別支援学級の保護者とふれあいの丘の保護者、そして教職員ボランティアによって組織され、活動の財源を賛同者の寄付により賄っている。年１回６月頃、会員相互の親睦を図るために懇親会を行っている。今年も保護者同士の情報交換の場となり、とても有意義な会となった。

また、十日町小、十日町中の特別支援学級の児童生徒、ふれあいの丘の児童生徒を対象に花火大会（８月）とクリスマス会（12月）を行った。地域ボランティアの協力もあり、約300名の参加者となった。「ほほえみの会」は地域への共生教育の啓発活動としても大きな成果を上げている。

５　今後の課題

十日町小４年生では、総合的な学習の時間で交流学習が進められている。交流の活動内容は、その年の４年生の児童と担任の願いによって決まるため、毎年決まった活動内容ではない。実際に交流を進める上で、両校の担当者の共通理解を深めることが必要である。

ふれあいの丘は、小学部１年生から中学部３年生まで幅広い年齢の児童生徒が在籍している。しかし、その実態から、十日町小の児童が「お世話する」というかかわりになっている場面も見られる。今年度は、ふれあいの丘の中学部から学ぶという目的から、十日町小４年生が作業学習の体験を行った。４年生の児童は、早くから就労に向けての訓練に真剣に取り組む中学部の生徒の姿に直に接し、尊敬の思いを抱くようになった。４年生の児童よりふれあいの丘の児童生徒は先輩であることも多く、生活年齢を考慮したかかわり方を今後も検討していかなければならない。

※写真掲載につきましては、承諾を得ているものを使用しました。